



特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

2015 年度 年次報告書



(20周年記念パーティーにて)

2016年3月19日(土) 13時半～16時

東京都台東区 台東区区民会館

年次報告書

目次

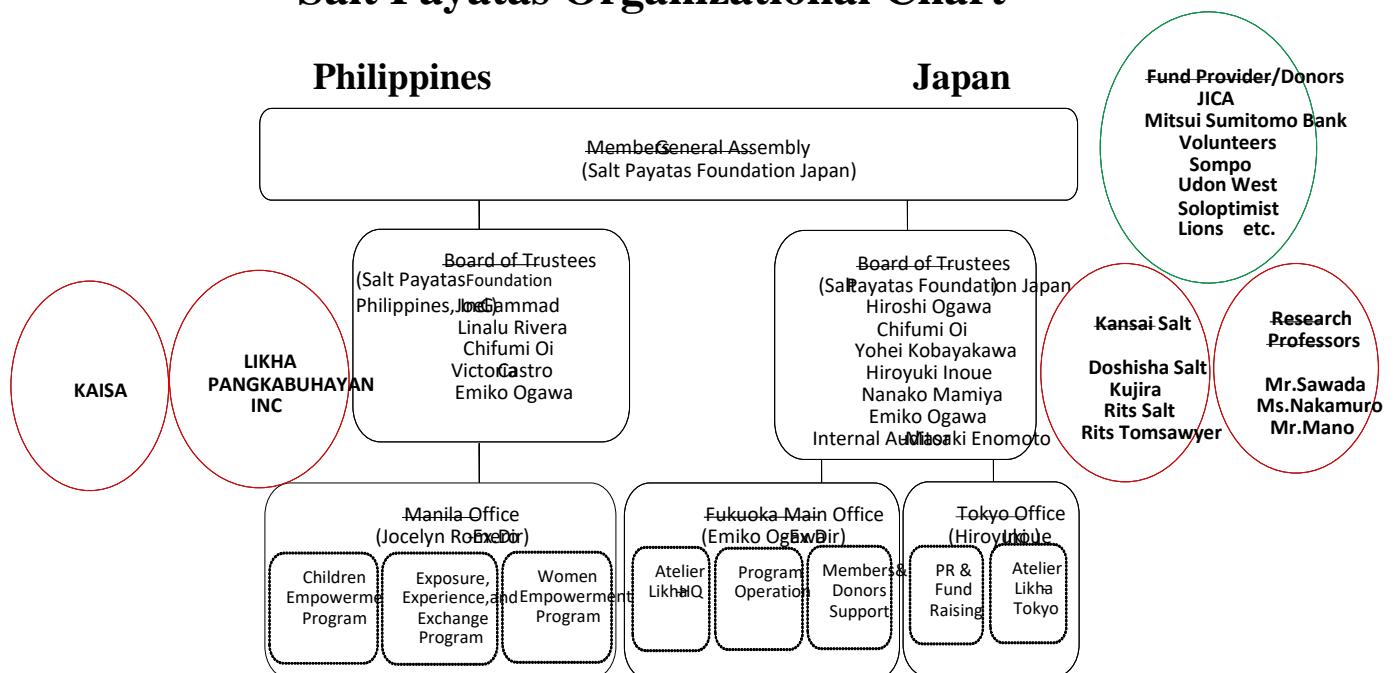
P1	表記	
P2	団体概要	ビジョン ミッション 団体組織図 ネットワーキング
P3	2015 年活動報告と 2016 年活動計画	BLP Scholarship and Storytelling WEP EX3 Admin, Finance and HR Management and Board of Trustee LPI
P4	2015 Financial Report	FS Auditor' s certificate



OUR MISSION

To empower the people in the poverty to realize improvement of their lives with confidence and hope.
 To provide people opportunities to enhance capacities that will enable them to address poverty issues within their schools, communities, and works places towards a more transparent and just society.

Salt Payatas Organizational Chart



2015年度活動報告と2016年度活動計画

① ライフスキル事業の構築

カシグラハン再定住地における都市貧困層の子どもたちを対象としたライフスキル事業の構築（以下、BLP）

■ 事業背景

BLPは、JICA フィリピンから助成を受けて2015~16年に実施する2年間の事業である。主な内容は、カシグラハン（以下、KV）における子ども図書館の建設とライフスキル・トレーニングの構築である。最終目標として、地区内でライフスキル活動を実施することができる5人のボランティアトレーナーの育成をめざしている。また、ソルトではより適切なライフスキル・トレーニングや、対象地区への介入を可能にするために、日本の研究者グループと共同で調査を実施した。

■ 主な内容

- ・ 図書館を兼ねた施設の建設
- ・ 日本の研究者との共同研究

（世帯毎のコミュニティ調査、学校での子どもへの調査、2次情報の収集、教育省、学校、住民組織自治体、国家住宅局との連携、その他の活動）

- ・ ライフスキル・トレーニングとその他の介入
- ・ 5人のライフスキルトレーナーの育成

A. 2015年度実施状況

<達成状況>

1. 子ども図書館の建設（別紙資料参照）
2. ベースライン調査

◆コミュニティ調査

地区調査—5月7日～6月8日に1D地区441、1K地区300の計741人に地区調査を実施した。

世帯調査—5月8日～10月22日にUnit1で計722人の児童・世帯を対象にした。全てのデータは研究チームにオンラインで提出された。ベースライン調査のため、昼食を含めて1日250ペソの報酬で地区内から調査員25人を集めた。7月5日～8月12日に澤田教授（東大）、真野教授（一橋大）、中室教授（慶大）から調査員としての資格を受けた。

◆小学生への調査

Unit1の小学校677人とカシグラハンの小学校697人の計1374人の児童を対象に8月26、27日、9月1、10、22、23日、10月10日の7日間で調査をした。

◆ 2次情報の収集

両小学校から3年分の全児童の成績表の記録と栄養状態、誕生日の情報を得た。

◆ ネットワーク作り

- ・両小学校の校長との間でベースライン調査におけるそれぞれの役割を規定した覚書を交わした。
- ・ソルトと研究チームは8月27日に教育省を訪問し、ベースライン調査に関するプレゼンをした。
- ・HOA一子ども図書館建設のため、1K地区の住民組織の代表や幹部とも関係性を築いた。
- ・建設現場の安全確保や世帯調査に使う地図の入手のために、自治体や国家住宅局からの協力も得た。
- ・将来的に図書館を運営するK A I S Aとも定期的に議論し、プログラムの担い手としての準備を進めた。

◆ その他の活動

- ・職員と調査員への事前のワークショップ
- ・研究チームとの中間評価
- ・調査員への証明書の交付

B. 今後の課題

- ・JICAの助成の対象外である2016年のライフスキル・トレーニングの資金確保
- ・目標としている5人のトレーナーの訓練
- ・参加する子どもや親にとって魅力的で適切である介入の方法の検討
- ・パートナーである学校の関与の持続5. ライフスキルと図書館活動の計画づくり

C. 建設状況

JICA職員や住民組織の幹部、地域住民の出席を得て、6月8日に起工式を執り行った。

その後工事計画の不遵守や再設計費用の見積などの問題があり、一時期工事が中断されていましたが、昨年の12月から工事が再開されており、2016年2月時点で約20%完成している状況です。

② 子どもエンパワメント事業

■ 奨学金事業の実施状況

- ・ 2015～16年は、パヤタス10人、カシグラハン31人の計41人の奨学生で始まった。
- ・ 41人のうち、大学生1人が非公式な落第により、支援を終了した。最低限の成績を取れずに、学業規定に違反し、1学期の停学を言い渡された。同様の理由で、レギュラーから特別パッケージに移された。
- ・ 小学生2人と大学生5人が、2016年3月に卒業を迎える。

現在の奨学生の人数 (2015年12月31日現在)

	パヤタス	カシグラハン
小学生		5
高校生	6	15
大学生	4	11
小計	10	31
大学中退		1
計	10	30

・ 奨学生がスタッフとして参加した場合は、1学期で100時間、500ペソを上限に1時間あたり5ペソを支給した。これは支援に報いて、他者に奉仕するために、大学生の奨学生たちによって提案、合意された。スタッフとしての時間には、清掃や補習、その他の与えられる任務が含まれる。そして、1人の奨学生のみが上限の時間に達し、彼は努力に対して、追加の奨励金を受けた。

・ 奨学生と保護者のソルトの会合への参加が前年までより増えた。奨学生の出席率はカシグラハンが75%、パヤタスが61%。一方、保護者は両地区で72%だった。以前と同様、こうした会合はセンターの改善や安全確保などの懸案事項を議論する重要な機会となっている。K A I S Aの協力の下でフェンスや外装など、センターの修繕に充てる資金が増えたことは、奨学生や保護者の成果の一つである。

・ 2015年の年次報告が終了し、2015年8月に日本に提出された。

・ 定期的な意見交換も行われた。

■ 達成事項

1. 参加型評価 (別紙参照)

就学合意書の六つの基準に基づき、定期評価が履行された。特に定期的な指導や相談が必要な事について年4回、評価をすることにより、奨学生の成長をモニタリングしている。基準6 (積極的姿勢)の中で、子どもエンパワメント事業 (CEP) では、次の項目の平均を指標に含めている。

- ・ ボランティア活動/他者へのふるまい/ミーティングやトレーニングへの参加
- ・ AR requirements/成績表の提出

2. ほとんどの保護者が保護者会や奨学生に関わる活動に参加した。

3. 保護者たちはカシグラハンセンターの柵や塗料のために、K A I S Aと資金を集めた。

4. 奨学生と保護者との対話や家庭訪問が実施された。

5. 5人の大学生の奨学生が2016年3月に卒業を予定している。

1. 2 補習授業

1. 21人の小学生と高校生の奨学生のために計38回の補習をした。

2. パヤタスでは毎日の給食が維持されて77%の出席率、一方、毎週土曜日に補習をしているカシグラハンでは80%の出席率だった。

3. パヤタスでは6人のうち2人の奨学生が、最初の2学期で83%以上の成績を収め、ソルトの報奨制度を受けた。

4. カシグラハンでは、15人のうち5人の奨学生が報奨された。1人は高校で自身の平均点を上げ、4人は維持したことによる。

5. ピア（仲間）エデュケーションのシステムがカシグラハンで続けられた。

6. カシグラハンの学習の進んだ奨学生は数学と英語に集中して臨んだ。それらは平均以下の成績の小学生にも取り入れられる予定だ。

1. 3 図書館

A. 利用状況

2015年の訪問者は計1854人で1日あたり13人であり、前年よりわずかに少なかった。

B. 5年間続けて、1人の母親がわかばセンターのボランティア司書として働き続けた。（ラウディットさん）

C. 参加型評価（PPE）で図書館利用者に関して分かったことは、以下の通り。

1. 多くの利用者が女性だった

2. 頻繁に利用する人はわかばセンター近隣に住んでいる

3. 頻繁に利用する人は読書や宿題をするために訪れる

4. 物語が好んで読まれる

5. 友達と訪れる人が多い

6. 友達の紹介で図書館を知る人が多い

7. 全ての回答者が、図書館が勉強の役に立ったと答えた

8. 利用者は読書に加えて、クロスステッチのトレーニングやスケッチ、料理、読み聞かせのような活動を期待している

9. 利用者は図書館で勉強を教える人がいないと言っている

10. インタビューによると、図書館は学習習慣を高めるには有益だが、ほかのライフスキルを高める活動も必要とされている。

1. 4 読み聞かせ

2015年1～12月にパヤタスとカシグラハンで計18回の読み聞かせがあり、延べ767人の子どもが参加した。毎回、ネットワークや友人らの支援のもとで行われた。それぞれのセッションは前もって子どもたちや彼らの夢を紹介することからはじまり、本やえんぴつ、お菓子といった与えられたものに関する議論で終わる。セッションが終わると、読み聞かせをする者は振り返りをして、次回の計画をつくる。

達成事項

読み聞かせは子どもを引きつけるものであり続けた。多くの参加者が次の機会を待ち望んだ。



パヤタスでの読み聞かせ



カシグラハンでの読み聞かせ

上映会がパヤタス、カシグラハンで始まった。両地区で移動しながら読み聞かせが行われた子どもたちに読み聞かせをするためのワークショップが開かれ、21人の奨学生が自身の技能を高めた。



読み聞かせのワークショップ

PARTICIPATORY PROGRAM EVALUATION of CEP

Overview

In the year 2012, the first Participatory Program Evaluation (PPE) of Children Empowerment Program (CEP) was made. The purpose of this Participatory Program Evaluation is to know the status of the Children Empowerment Program after two years from the implementation of the program in Payatas and Kasiglahan. After three years Salt conducted again the PPE for the CEP last 2015.

Objectives of PPE 2015 for the CEP Program:

1. To know what the program attained and not attained.
2. To collect facts and other useful information to plan a new sustainable life skills educational program.
3. To develop program management capacity among community people and Salt staff

Project Outline:

Evaluation type	Program - Evaluation
Target program	Children Empowerment Program
Program term	January 1, 2011 - March 31, 2015 (end of school year) = 4 years and 3 months
Term of evaluation Project	September 24 to November 2, 2015 September 24- October 6 (2 weeks) - Preparation October 7-October 21 (2weeks) - Evaluation design, Data collection, Data Analysis and judgment.
Evaluation Criteria	Effectiveness, Relevance, Efficiency, and Sustainable
Evaluation Team	Facilitator: Ness Dometita Advisor: Mr. Hiroshi Tanaka Evaluation Team: Leader: Victoria C. Castro (Vicky) Core team Assisting Leader: Carmelita Gobrin (Millet) Core team Jocelyn Romero (Jo) NecitaDomitita (Ness) Core team Catherine Mendoza (cathy) ChifumiOi

	<p>Aya Tamura - Core team Scholar from Payatas- Scholar from Kasiglahan- Guardian from Payatas- Labro Guardian from Kasiglahan- Mosende Likha (LPI)- (Dang) Kaisa - Placiente</p> <p>Assistant Members: Maynard, Taiki Yoshida</p>	<p>Cristina Eugenio Jefferson Camba CreslyLaudit, Sheryl Pamela Perez, Susan Oraida C. Punay Elsa Karen, Charlotte,</p>
--	---	---

Day 1	<p>Briefing 1: to Salt Staff about the Image of Evaluation, What is Evaluation Objectives of PPE, Schedule of PPE, Who is team of PPE/ Core team of PPE Log frame of CEP</p>
Day 2	<p>Briefing 2: to PPE Core Team, Edit PPT, hand out Edith log frame Preparation of workshop Rehearsal.</p>
Day 3	<p>Briefing 3: All PPE team (17 Introduce the Evaluation , Objectives, Schedule, PPE team, Core Team</p>
Day 4	<p>Evaluation Design of all PPE team</p>
Day 5	<p>Evaluation Design of all PPE team, Preparation of Information collection, Training for Interview.</p>
Day 6	<p>Information/ Collection (Field work) All assigned Members.</p>
Day 7	<p>Information Collection (Field work) All Assigned Members</p>
Day 8	<p>Recording/ Information Collection (Field work)</p>
Day 9	<p>Information Collection (Field work)</p>
Day 10	<p>Information Collection (Field work) assigned members</p>
Day 11	<p>Recording / Information collection(Field work) assigned members will do</p>
Day 12	<p>Information Collection (Field work) assigned members</p>
Day 13	<p>Preparation for Analysis and Judgment (PPE core team)</p>
Day 14	<p>Analysis and Judgment (All PPE Team)</p>
Day 15	

Four Evaluation Criteria

1. Appropriateness: To examine the Justifiable or necessity for project implementation.
 - Did the project match to the needs of beneficiary?
 - Was the project goal set up properly?
 - Was the project approach was proper and fair?
2. Effectiveness: To examine project effects and/ achievements.
 - Has the expected result attained?
 - Has the project goal been achieved?
 - Did the project benefit poor people as expected?
 - Did the project make unexpected positive/negative impacts?
3. Efficiency: To examine project efficiency (the relation between cost and effects)
 - Was the project cost justified by the degree of achievement (could it be another cheaper/faster way?)
 - Were project money and in-kind donation used without wasting?
- 4 Sustainability: To examine the sustainability after the termination of foreign assistance:

Does the organization have the capacity (Money/Human) to carry out activities without Japanese aid?

Types of Interview used in the area:

Long interview (Active Guardians &Scholars) both Payatas and Kasiglahan.

Short interview (All Guardians/ Scholars/Frequent and not Library users / frequent and not Story Telling participants) Both Payatas and Kasiglahan.

Focus Group Discussion (Likha BOT and Kaisa officers).

<p>Short interview to frequent users LIBRARY</p> <p>Not frequent users of LIBRARY</p> <p>Logbook attendance 2011-2015 LIBRARY</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Most of them are near in Wakaba - Invited by their friends/with friends - They want to read story book - They read book and do their assignment - Big help to their studies - Not familiar to the place - Number of users in the 2nd year was increasing based in the data from the logbook (2012). - In the 3rd year 2013 - 2015 the users was decreasing. 	<ul style="list-style-type: none"> - Our Wakaba library was very helpful to the users to enhancing their study hobbit, reading hobbit and big help to their studies and to change Their attitude. <p>Less information, not so much interested.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Every year the users was decreasing. 	<ul style="list-style-type: none"> - Additional activities that help them to develop their attitude and study habbit thru life - Skills. New books - Change the ambiance of the Library to be attractive to the children. - New books - Change the ambiance of the Library to be attractive to the children.
---	--	--	---

Data Collected	Findings	Analysis	Comment shared on Nov 5
<p>Number of storytelling activities</p> <p>Number of participants</p> <p>Story teller attendance</p>	<ul style="list-style-type: none"> - From 2011- 2015 Sept we has 31 story telling activities. - Used fantasy books with moral lesson. - We has story mobile and storytelling in the center. - Most of the participants are girls. - Attendance increasing - Story tellers are scholars and staff/guardians. - Lack of story teller 	<ul style="list-style-type: none"> - The participants always asking the next schedule of the story telling. They excited to listening the fantasy stories. - Story telling is effective for enhancing their listening. - Need to train story teller from the participants. - Motivate the participants to be story tellers 	<ul style="list-style-type: none"> - Story Tellers should not rely on the story books, but also real story like dumpsite issue. - Who is the regular story teller?

Findings and Analysis

Data Collected	Findings	Analysis	Comment shared on Nov. 5

Focus Group Discussion Kaisa	Kaisa no financial capacity to sustain the tutorial and life skill in Kasiglahan. But they had a Human capacity to manage.	Need sustainable Livelihood to maintain the program in the future. They need big amount to maintain this program.	
---------------------------------	--	---	--

Data Collected	Findings	Analysis	Comment shared on Nov 5
Focus Group Discussion BOT LPI	*Likha has financial capacity. But no enough human capacity * Likha has BOT Likha has policies/system to operate their group. But no capacity to handle a new activities.	They can continue to give life skill without Salt, because they already started to give training to the children, but they need to hire person in charge to manage, because they focus to their production than in the new program.	Financial capacity was stable, but need trainings related to this program.

Lifeskills: What life skills do you think you (your child) improved with CEP activities? Why?

Scholars:

Self-esteem	64%
Other life skills	20%
Others	13%
Goal setting	7%
Communication skill	7%

Parents:

Self-esteem	41%
Other life skills	14%
Decision making	8%
Goal setting	8%
Communication skill	8%

Ratings of Each Program and Activities:

Scholarship-	2.86
Tutorial-	3.40
CEP-	3.38
Library-	3.21
Life skill-	3.95
Kaisa Life skill	2, 45-
LPI Life skill-	3.09
LPI library-	3.27
Kaisa tutorial-	2.27

③. 女性エンパワメント事業 (WEP)

■ プログラムの目的

Kaisa の組織力を高め、図書館を 1K 地区で運営できるようにする

プログラム実施期間 : 2015-2017 (3 年間)

2015 年の予算 : P13, 500

2015 年の総経費 : P0 (個人支出/設備費用)

■ 2015 年の主な業績

1. 過去 2 年間の支出と収入をすべて調査することで、Kaisa の経理がより体系的になり、会計係が会計帳簿を使えるようになった。今後、毎月末に会計帳簿と手元にある現金を確認する
2. 各活動の責任者が決定した:
 - Livelihood -Emily Serundo
 - 募金活動
3. クリスマスに古着バザーやキャロリングなどの募金活動を行った結果、12,000 ペソ以上の募金が集まった
4. アテネオ・デ・マニラ大学、そして VAWC (女性と子どもへの暴力撲滅を目指す組織) と関係を築いた。Kaisa は 7 名のアテネオ大学生と共同して地域活動を実施する。ロドリゲス・リサール地区の VAWC とは、Kaisa の活動目的である女性と子どもの保護という理念の一致から、これからも協力をしていく
5. Kaisa の役員たちがより活動的かつ意欲的になった。特に学ぶこと、Kaisa のミッション、ビジョン、そして 1K 地区で図書館を運営していくという目的を達成することに意欲的になった
6. Pamela が昨年 12 月 8 日、9 日に行われた女性能力向上トレーニングに参加した。ジェンダーと情報通信技術 (ICT: information and Communication Technology) について学んだ
7. ソルトセンター内のフェンスの修繕を、2015 年の Kaisa の事業の一環として手伝った

■ 改善が必要な事柄

- a. 各プロジェクト、および組織のマネージメントを強化する

2016 年の目標

1. 新規収入向上事業を開始するための調査と実施
2. 収入向上事業の運営能力を高めるため Kaisa へのトレーニングを行う

④. 現地体験プログラム

■ プログラムの目的

貧困・格差の問題に関する理解を深め、公正な社会をめざし地域・職場・学校で活躍する人材を育てるための啓発および研修事業を行うこと。

■ 2015 年の活動報告

2.1 概要

参加費総収入

フィリピン P1, 153, 648. 19

日本 1, 467, 860. 00

総参加者数 267 人

January	1	1%
February	30	11%
March	73	27%
April	0	0%
May	6	2%
June	10	4%
July	5	2%
August	64	24%
September	49	18%
October	16	6%
November	5	2%
December	8	3%
TOTAL	267	100%

■ 現地体験プログラムの地域住民への貢献

- 財政面でのサポート - 保護者として参加した住民への報酬／謝礼金
- 自己啓発 - それぞれ適格と思われる保護者たちに、料理、プレゼンスキル、社交スキルなどのトレーニングを提供した
- 奨学金、Likha、運営管理に関わる費用に対する持続可能な財源となった

2015 年 4 月 29 日、バタンガスのカレルエガにてパヤタスの 6 名の保護者とカシグラハンの 11 名の保護者と共に 現地体験プログラムの振り返りを行った。保護者たちはこのような活動への参加を心待ちにしている



カエルエガでの振り返りにて

- ・タガイタイ市ピクニックグローヴにてパヤタスの 6 名の保護者とカシグラハンの 13 名の保護者と共に夏季の現地体験プログラムの振り返りを実施した。彼ら全員がすべての活動に参加し、参加 1 度目に比べ成長した面が多く見られた
- ・くじらと同志社大学のグループが春のスタディツアーに参加し、NGO KAISAKA の Mitzi Chan とそのスタッフによるアテンドでトンドの家事被害者を訪問した。また KV とパヤタスの奨学生と保護者達との文をケソンサークルにて行った。

■ 2016年に改善／向上の必要な事柄

- ・パヤタスとカシグラハンのパートナー達の能力向上　－　特に学習能力／自己洞察力
ポジティブシンキング、団結力、提唱能力／ネットワーキング力
- ・LIKHA または KAISA に対する謝礼金を固定費用としたほうが良い
- ・基盤となる3時間のEX3に加え、1日、または2日間のライフスキルコースを設定すべき
- ・スタディツアー終了後のフォローアップの進め方を明確にすべく、日本とフィリピン事務局間で話し合うべき
- ・私立の学校や、IBプログラムを含め、EX3プログラムを展開できそうなフィリピンの学校とのコネクションづくり
- ・ビデオによるプレゼンテーション、フィリピン国内用に配布する英語版の冊子を作成する

⑤. 女性エンパワメント事業 (LIKHA)

■ 2015 年年度活動概要

2015 年より地域の子ども達のためにクロスステッチのワークショップを開催した。目的は、子ども達が創造的な思考や判断力を養い、自らの考えや気持ちを表現することでストレスに向き合うことができるようにするためだ。子ども達は Likha のお母さん達からステッチの技法を学び、手作りすることの楽しさを体感した。また、このワークショップを通じて新しい事を学ぼうとする意欲がや責任感が芽生えた。

また、Mid-term Goal Setting Project (中長期目標設定プロジェクト) という新たなプログラムにも着手した。これは財務計画など、Likha Pangkabuhayan Inc. の各セクションの中期の目標を明確にするためだ。このセッションを通じて、明確になった目標を達成するための戦略を打ち立てること、PDCA サイクルの有効性をより明らかにすることができるはずだ。実際に、地域と Likha の受益者に対する必要経費を把握するため、3 年後の必要予算案をだすことを学んだ。

2014 年の売上は PHP2, 112, 107. 50 であったのに対し、2015 年は PHP1, 953, 655 と減退している。これは、売上の一部を占めていたある顧客からの注文数が減ったためだ。

■ ビジョン

「子ども達が学ぶことができ、大人が働く誇りと喜びを感じることができ、人々が、公共の福祉のために

連携・協力することができる社会」

■ ミッション

- ・ 家族の生活や子ども達の教育のために、貧困世帯の女性たちに収入を得る場を提供すること
- ・ 自助自立のための技能を高め、相互協力の意識を団体、地域レベルで高めること
- ・ 価値のある商品の生産、販売活動を通して、生産・流通・販売・購入のプロセスで関わる人達に幸せを

届けること

NUMBER OF MEMBERS

Year	2014	2015
Likha stitch worker	16	11
Likha Part time stitch worker	Total 7 (Kasiglahan-2) Payatas 5)	Total 16 (Kasiglahan-1, Payatas-15)
Sewer at sewing machine	1-Payatas	1-Payatas
Sewer bank	1-Payatas	1-Payatas

■ 2015 年の変化と進歩

- ・今年より地域の子ども達のためのワークショップ（クロスステッチ）を計 11 回地域の子ども達に向けて開催した



- ・中長期目標設定プロジェクト：Likha のマネージメントチームは、小川より 1 3 回のセッションで中長期の目標を設定するためのノウハウを学んだ。
- ・2 月から Loreta がのアシスタントプログラムマネジャーとして働き始めた。在庫管理、生産発注、売れ筋商品の把握、分析をすることが職務となる
- ・2 月 18 日、初の総会を開き、事業の目標と課題とについて話し合った
- ・10 月から Siony がパートタイムアシスタントとして働き始めた。母親たちへの仕事の振り分けや、イベント・バザーなどでの在庫管理や販売を手伝っている
- ・マーケティングの一環として、11 月 7 日、マニラ在住の日本人向けピンバッジ作りのワークショップを開催した
- ・パートタイムでステッチ製作の仕事を希望する人々の面接を行った。27 人中 11 名が採用された

■ 2016 年の目標

1. クロスステッチ生産者の目標雇用者数を考慮した 2016 年の売上目標は P2, 785, 000. 00
2. マーケティングマネジャーを公募
3. クロスステッチ生産者の目標雇用者数は 30 名：フルタイム 14 名、パートタイム 16 名
4. 地域の子ども達に向けたクロスステッチとアートのワークショップを 12 回開催

